

フェンシング男女が活躍 全日本学生選手権

男子 団体 フルーレ・サーブルともに2位

個人 フルーレ・福田 サーブル・片岸優勝

フェンシングの全日本学生選手権が11月10日から14日まで駒沢屋内球技場で行われた。

男子団体は、フルーレとサーブルでともに2位と健闘。個人では、昨年の同大会エペで優勝した福田佑輔(経済4・東亜学園高)がフルーレで優勝。サーブルでも今秋の関東学生選手権フルーレを制した片岸祐一郎(経営4・富山西高)が優勝を遂げ、寺田直生(法3・埼玉栄高)が4位入賞。専大の実力を証明した。



女子 団体 フルーレ2位・サーブル4位

個人 平田、荻が2位、内藤3位

団体は、フルーレで2位、サーブルで4位。個人では、フルーレで平田京美(経済3・羽島北高)が2位。サーブルで荻祥子(文3・大分豊府高)が2位、内藤絵理奈(商4・武生商高)が3位。エペで中島夏希(法4・鹿児島南高)が6位入賞。

▲女子フルーレ=左から坂本芳江、庭田瑞穂、鈴木彩香、平田、荻

平田は「今回の大会で1本の大切さ、つなげることの大切さを改めて確認した。次の全日本は昨年以上の成績が残せるように頑張りたい」と強い意気込みを見せた。(矢口蘭・文1)

【ニュース専修12月号12面】

田中初の栄冠 レスリング・内閣総理大臣杯全日本大学選手権

天皇杯3連覇に期待



▲圧倒的な強さを見せた田中

レスリングの内閣総理大臣杯争奪全日本選手権が11月7,8日の2日間、兵庫県西宮市鳴尾浜スポーツセンターで行われ、120kg級で出場した田中章仁(経済3・三井高)が初優勝。8月の全日本学生選手権と合わせて2冠王となった。

決勝の相手は昨年、苦杯をなめさせられた拓大・沢田。「何度も戦って勝ち越している相手。勝てるという気持ちで臨んだ」との言葉

通り、安定した試合運びでフォールでの勝利を収めた。

次の照準は3連覇のかかる天皇杯(12月21、22日・代々木第2体育館)「ケガに気をつけて練習を積み重ねていきたい」と語った。

【ニュース専修12月号12面】

84kg級で尾島が優勝 東日本学生レスリング新人戦

駒沢体育館で行われた東日本学生秋季新人戦フリースタイル(11月28、29日)では、84kg級で尾島好洋(法2・滑川高)が初優勝を果たした。

良いコンディションで大会に臨むことが出来た尾島。「まだ優勝の実感は沸いてこないが、コーチの指導を信じて取り組み、結果が残せたのでとても感謝している」と話し、今後の目標を「インカレ等の大きなタイトルを狙っていきたい。個人だけではなく、団体でも結果を残せるように努力していきます」と力強く語ってくれた。

同大会では120kg級で吉田年成(商2・八戸工大第一高)が2位、60kg級で坂口信仁(経営2・添上高)が3位と、専大勢が健闘を見せた。(高橋伸明・文2)

【ニュース専修12月号12面】

障害飛越で見事優勝 17年ぶり・全日本学生馬術選手権



▲浅見恵一主将の鮮やかな飛越=撮影・日下石聡子

障害飛越、馬場馬術、総合馬術の3競技で争われる馬術の全日本学生大会が11月4日から9日まで、JRA馬事公苑で行われた。専大は障害飛越で17年ぶりの優勝に輝いたのをはじめ、馬場馬術で3位、総合馬術で10位、3種目総合でも3位という好成績を収めた。

個人では、障害飛越で森裕悟(商2・関東第一高)が6人のジャンプオフの結果、惜しくも4位、浅見恵一主将(商4・金光大阪高)が9位、馬場馬術で石澤崇幸(経営1・帝京第三高)が8位、

総合馬術で浅見が10位という結果に終わった。

基礎練習を中心にレベルアップを図る 富沢監督談

富沢健悟監督は「障害飛越には自信があったものの、今後の課題は総合馬術。実力がそのまま試される競技なので、今後は基本練習を中心にレベルアップを図りたい」と語った。

課題は残されたものの次のステップに向け走り出した専大馬術部。次回の活躍に期待したい。(伊東明希・文1)

【ニュース専修12月号12面】

クラッシュボウル 準決勝法大に惜敗 関東大学アメフト



▲準決勝 対法大戦＝撮影・奥原佑城

アメリカンフットボールの関東大学ナンバーワンをかけたプレーオフ。その準決勝が、11月23日、駒沢陸上競技場で行われ、法大(Aブロック2位)と対戦した専大(Bブロック1位)は14-20と惜敗を喫した。

試合に先駆け行われた記者会見で、山崎秀紀主将(経済4・足立学園高)が「一丸となって、法大に向かっていきたい」と語ったこの試合。

緊張からか硬さの目立つグリーンマシーン。先制点を奪われ、前半は法大ペース。第2Q、梅本祐輔(経営3・平安高)からのパスを尾崎雄樹(経営4・箕面自由学園高)がキャッチ。そのまま走りこんで、待望のTD! 振り出しに戻した。

後半、巻き返しを図るが、逆に追加点を許す苦しい展開。第4Q6分、QB富田基樹(経済3・足立学園高)のTDで奮起し、最後まで法大ゴールを脅かすが、逆転ならず。試合終了となった。

「精神面での弱さもあった」と、平野恭雄監督は試合を振り返った。

今後の課題も見えたグリーンマシーン。来年、更なる高みを目指す彼らの活躍に期待しよう。(稲田礼子・法2)

【ニュース専修12月号12面】